

## 0 . AALA ニュース 115 号 内容紹介

### 1 . East Asia Forum 「ペロシ訪台が米中黙約を破たんに」

東アジアフォーラムの記事です。著者の Swaran Singh はネルー大学（ニューデリー）国際学部教授で、ブリティッシュコロンビア大学政治学部客員教授も兼任する東アジア研究の第一人者です。

「ペロシの旅は、太平洋における不信任感、民族主義者のエスカレート、軍拡競争の新たなサイクルを解き放つことになった」と警鐘を鳴らしています。

### 2 . K.Heuvel 「新たな冷戦をもとめるワシントン」

グローブトロッターの記事です。著者 Katrina vanden Heuvel はネーション紙の編集長で、米国のリベラル派を代表する論客です。

米国の保守派世論が過激化するのには、海外の論調にますます鈍感になっているからで、その結果、海外諸国のアメリカ離れが急速に進行しつつある、と主張しています。

### 3 . アルジャジーラ 「ザボリジャー原発で、事故が発生したらどうなるか？」

原発事故を経験している日本国民にとっては、既知の情報もたくさんありますが。アルジャジーラは「正しく恐れる」ための情報を提供しています。事故が起きた場合、事故そのものよりもパニック被害のほうがシビアになるだろうと予測しています。

その上で「爆発」よりもサプライチェーンとオフサイト電源の確保が重要だと述べています。

### 4 . 新藤通弘 「キューバ石油基地の大規模火災と支援の願い」

8月5日、キューバ西部の石油備蓄タンク施設が落雷により炎上。その後の経過を進藤さんが多数の写真とともに詳しく報じています。文末には支援の方法についての情報も付け加えてあります。

#### **5 . 新藤通弘「キューバ石油基地火災と米紙の邪推」**

大火災の最中に、米国のある新聞は「キューバ政府は、自分たちが住む失敗した共産主義国家に嫌気がさした人々が、意図的に破壊行為を行った可能性があることを、国民に明らかにしたくない」ようだと書き立てました。これに対して新藤さんが事実で反論しています。

#### **6 . 鈴木頌「アメリカの人権至上主義・安易な原理主義と過激思想」**

いくつかのペロシ関連記事を読んだ編集者としての感想です。

#### **7 . 大村哲「赤祖父『正しく知る地球温暖化』の要点」**

会員の投稿です。『地球温暖化を正しく知るために』の要点紹介を作ってみました。アラスカ大学の赤祖父俊一名誉教授の著書です。投稿時の書式をそのまま残してあります。